令和7年度　朝霞市学校評価

学校評価（共通項目）評価書

朝霞市立朝霞第十小学校

柱	No	評　価　項　目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	目指す児童像に向けて、教職員が力を合わせて取り組んでいる。大規模校だからこそ、引き続き報告・連絡・相談が密になるよう、よりよいコミュニケーションが図れる環境づくりに努めていく。	A	コミュニティスクール構想、グランドデザインが整理され、目指す姿が明確に示されている。会議や行事に参加した中で、職員の笑顔、声かけがとてもよい印象を受けた。学年で足並みをそろえてほしいと思う場面もあったが、フォローし合い取り組んでいたように思う。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。（※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む）	A	問題が発生したときの対応・再発防止については、学年・学校で共有しながら、解決に導けるよう取り組んだ。校内での児童の事故防止に向けて、安全点検や整理整頓の確実な実施に努めていく必要がある。	A	子供の声を聞く時間や活動が活発で、相談しやすい環境が整っている。外部からの校内立ち入りを厳しくするとともに、一定数存在する登校渋り、不登校への取り組みを進めることを期待する。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	「めあて」と「振り返り」を重点に置き、学習活動を通して児童が意欲的に学ぶことができるよう、授業実践を重ねた。「個に応じた指導」と、児童が安定した気持ちで取り組める支援・環境体制づくりを進めていく必要がある。	B	基礎学力はおおむね身につけることができている。個人差はあるものの宿題や授業の復習に工夫を感じている。 基礎学力はもはや学校だけの問題ではなく、家庭での家族の関わりも大切になっていると思われる。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	今年度は算数を研修の中心にして進めたため、学校全体で同じ方向性で取り組むことができた。例年実施している3年生算数のステップアップ教室も多くの参加があり、効果的な実践となった。 今後は、多様な学びを保証しつつ、現在求められている「探究的な学び」の実現が課題となっている。	A	先生方の努力の積み重ねがあってのことと思う。教師間で教材の共有等でチームとして取り組んでいる。授業後のステップアップ（3年）等で学力アップに努めている。参加率も高く、底上げに寄与している。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	くつのかかとをそろえる「くつピタ」、床の落とし物をなくす「ゆかピカ」、名札を胸につける「胸キラ」に加え、学習の事前準備「がっちりトライアル」を継続して実施している。毎月よくできたクラスを発表することで、定着を図っている。	A	あいさつ、通路歩行、登下校もきちんとしており、発達段階に応じた態度を身に付けていると感じる。学校に伺うたびに、児童から元気な挨拶をいただいている。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	学年の発達段階に合わせて、辛抱強く指導を継続している。指導したことが定着するよう、適宜見届けをしていく必要がある。児童だけでなく、教職員においても、「授業の開始時刻・終了時刻を守る」「言葉遣い」等の凡事徹底を図り、児童とともに望ましい人間関係作りに努めながら、規律ある態度の育成を行っていく。	A	先生方は、課題解決に向けて改善に努めていると思う。継続した取り組みを続けていらっしゃることを見聞きしている。 課題のある子があまり目立たず、学校全体が落ち着いている感じがする。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	多くの児童が外遊びを行い、体力の向上に努めている。今年度は新たに学年単位で「鬼ごっこ」遊びを取り入れる等、児童が楽しみながら外遊びに参加できる企画を行うことで、意欲付けを図った。引き続き児童の運動場面の確保を検討していきたい。	B	運動会、黒目川マラソン等従来の活動が戻ったが、まだ改善の余地があるように感じる。体育の授業の有効化の工夫（遊びの感覚で動き回れる活動等）が休み時間へつながることを期待している。中学校の部活が地域移行するように、小学校でもスポーツ指導者を迎え入れることができれば改善につなげられるかもしれません。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	体育部の担当が中心となって、様々な運動内容を企画実施している。運動会、黒目川マラソン、縄跳び大会等の学校行事が児童にとって大きな目標となり、意欲付けとなっている。普段の授業においても、「運動量の確保」に向けた授業実践につながるよう引き続き研修に励んでいく。	B	コロナ禍の体力低下に対して、いろいろと取り組んでいただき、県平均レベルに近づいている。さらに取組を進めていただきたい。 長期休みの体力シートは見直しが必要かと感じる。体力向上により効果的な対策を考えられるとよい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	A	今年度初めての試みとして、「じゃぶじゃぶ池の清掃」「木の移植」等、校内の環境整備について学校応援団の協力で大きく改善することができた。子どものための会をはじめ、様々な地域の協力や保護者と連携することができていると捉えている。今後は「探求的な学び」の実現に向けて、さらに多面的な協力を仰ぎたい。	A	保護者、地域の方々と家庭科やステップアップ教室などで連携している。 高学年算数の復習、昔遊びを通しての交流促進、つながりを深めるための交流スペースの設置ができればと思う。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	学校応援団、スクールガード、地区委員・世話人の方々等校内外を問わずたくさんの方に見守っていただいている。今後は、校内の「スペシャルサポートルーム」の整備を進め、多様な過ごし方を支援できる環境を整えていきたい。	A	忙しい中、保護者や地域の方は学校と協力し、児童を見守っている。のびのびと育てる環境づくりに感謝している。 教職員の評価も大幅に上がっており、地域の一員としてやりがいを感じる。コーディネーターの任用や地域への広報等の改善は必要。